

2-7 高齢者福祉施設

(1) 施設の概要、設置状況

高齢者福祉施設は、以下の設置条例に基づき7つの施設が設置され、貸室業務の他、介護予防事業や福祉相談、デイサービス事業※50などに関する事業を行っています。なお、新堂元気老人ステーション、島ヶ原老人福祉センター、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）については指定管理を行っています。

<高齢者福祉施設の設置条例一覧>

- ・ 柘植老人憩いの家設置条例
- ・ 新堂元気老人ステーション設置条例
- ・ 島ヶ原老人福祉センターの設置及び管理に関する条例
- ・ 大山田福祉センターの設置及び管理に関する条例
- ・ 伊賀市温泉活用施設の設置及び管理に関する条例
- ・ 青山福祉センター設置及び管理に関する条例

施設名称	地区	所管課	駐車場	施設延床面積	運営形態	設置根拠	備考
ふくじゆえん高齢者ふくし相談室	上野	介護高齢福祉課	無	112.00㎡	委託	伊賀市在宅介護支援センターの設置及び管理に関する条例(H19年3月廃止)	市が建設し、社会福祉法人に運営を委託していたが、H18年に無償貸与契約を交わし、管理運営を依頼
柘植老人憩いの家	伊賀	伊賀住民福祉課	有	574.52㎡	直営	地方自治法第244条の2第1項／柘植老人憩いの家設置条例	
新堂元気老人ステーション	伊賀	伊賀住民福祉課	有	297.00㎡	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／新堂元気老人ステーション設置条例	新堂区に指定管理
島ヶ原老人福祉センター	島ヶ原	島ヶ原住民福祉課	有	1637.99㎡	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／島ヶ原老人福祉センターの設置及び管理に関する条例	社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会に指定管理
大山田福祉センター	大山田	大山田住民福祉課	有	821.03㎡	指定管理	大山田福祉センターの設置及び管理に関する条例	社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会に指定管理
ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）	大山田	大山田住民福祉課	有	2113.58㎡	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／伊賀市温泉活用施設の設置及び管理に関する条例	介護施設は社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会、ゲートボール場は大山田温泉公社へ指定管理
青山福祉センター	青山	青山住民福祉課	有	1842.00㎡	直営	青山福祉センター設置及び管理に関する条例	

表 2-2-19 高齢者福祉施設の一覧



大山田福祉センター



青山福祉センター

※50 デイサービスは、島ヶ原老人福祉センター及び伊賀の国大山田温泉において、条例に位置づけられた事業となっています。大山田福祉センターについては、社会福祉協議会へ指定管理を行っています。

(2) 施設の状況

高齢者福祉施設を構成している9棟の老朽化率の平均は27.3%となっており、全体的に新しい施設が多いのが特徴です。9棟中8棟が平成以降に建築された新耐震基準の建物です。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
ふくじゅえん高齢者ふくし相談室	相談室	112.00㎡	平成7年度	40.5%	22年	鉄骨造	有	無	3.2点
柘植老人憩いの家	福祉施設1	258.35㎡	昭和41年度	88.0%	5年	鉄筋コンクリート	無	無	2.9点
	福祉施設2	316.17㎡	平成12年度	20.0%	39年	鉄筋コンクリート	有	無	
新堂元気老人ステーション	福祉施設	297.00㎡	平成16年度	16.2%	31年	鉄骨造	有	無	3.7点
島ヶ原老人福祉センター	福祉施設	1637.99㎡	平成6年度	32.0%	33年	鉄筋コンクリート	有	無	3.6点
大山田福祉センター	福祉施設	821.03㎡	平成15年度	18.9%	30年	鉄骨造	有	無	3.5点
ふれあいプラザさるびの(伊賀の国大山田温泉)	ゲートボール場「こころの丘」	1972.48㎡	平成14年度	21.6%	29年	鉄骨造	有	無	3.4点
	介護施設	141.10㎡	平成12年度	42.0%	13年	木造	有	無	
青山福祉センター	事務所	1842.00㎡	平成12年度	20.0%	39年	鉄筋コンクリート	有	無	3.8点

表 2-2-20 建物性能一覧表

建物性能評価点を施設単位で比較した図2-2-42のグラフでは、高齢者福祉施設の平均は全施設の平均2.7点を大きく上回る3.4点となっています。柘植老人憩いの家（2.9点）が3点以下となっていますが、これは、昭和41（1966）年度に整備された旧耐震基準の建物があるためです。

一方、その他の施設については、老朽化率が50%未満となっており、建物性能が高くなっています。

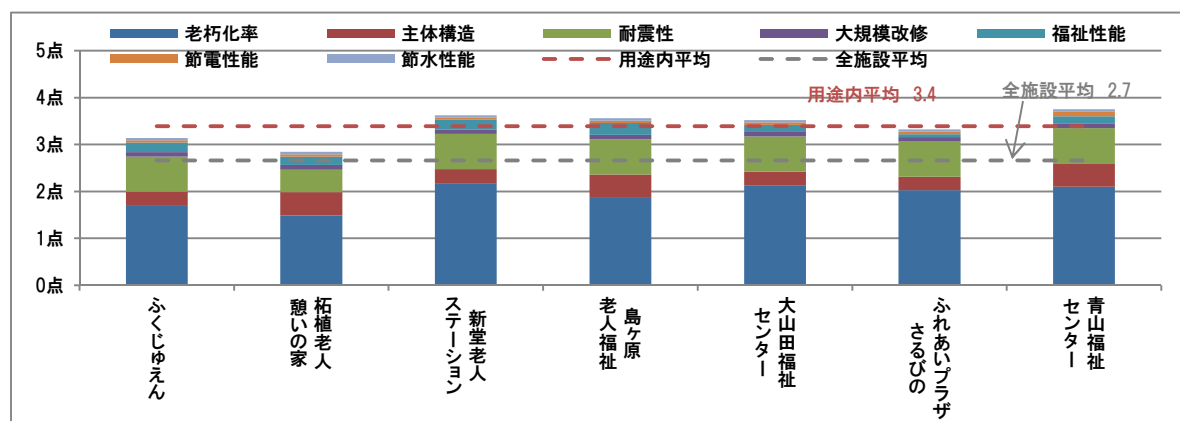


図 2-2-42 建物性能評価点の比較（5点満点）

(3) 財務の状況

図2-2-43は、高齢者福祉施設の保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。全体の保有コストは41,915千円/年となっています^{※51}。

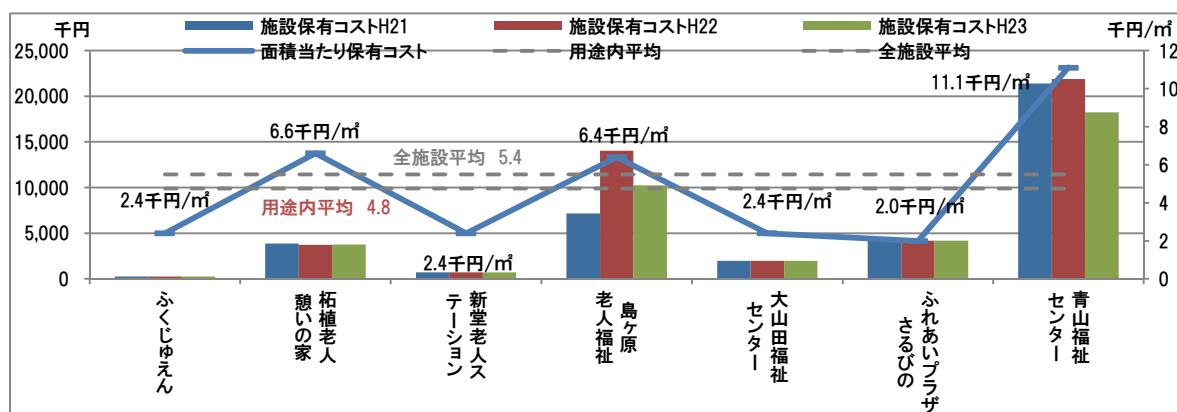


図2-2-43 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

高齢者福祉施設の利用者一人当たりコストについては、ふくじゅえん高齢者ふくし相談室が8,152円/人と、用途内平均の2,041円/人を大きく超えています。これは、総コストが少ないものの利用者数も少ないため、保険料や減価償却費相当分の影響が大きくなっていることによります。

一方で、新堂老人元気ステーション、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）、青山福祉センターでは1,000円/人以下となっています。

このため、最も少ない新堂老人元気ステーション（455円/人）と最も多いふくじゅえん高齢者ふくし相談室（8,152円/人）では、10倍以上の差が生じています。

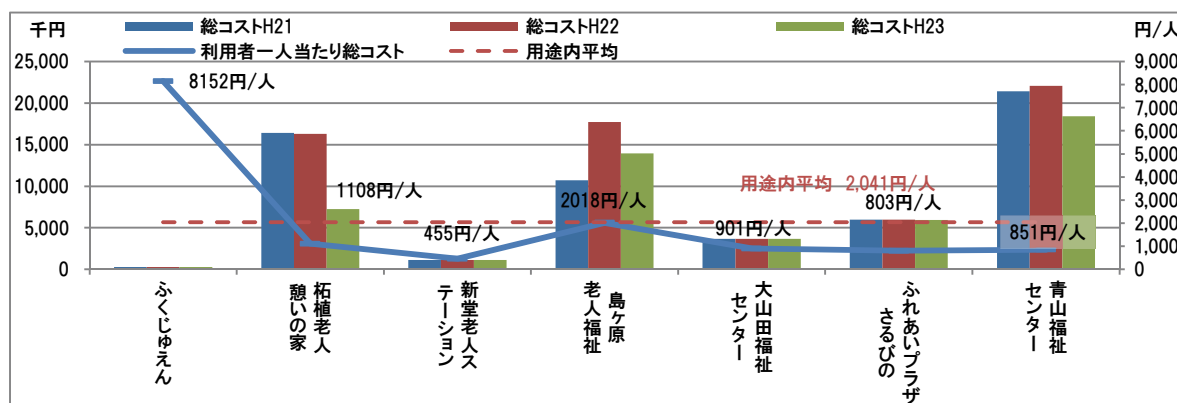


図2-2-44 総コストの推移と利用者一人当たり総コストの比較

※51 新堂老人元気ステーション、島ヶ原老人福祉センター、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）の光熱水費などは指定管理料に含まれているため、施設保有コストには計上していません。

(4) 供給の状況

高齢者福祉施設の直近の利用者数は、920人から24,240人と各施設の利用者数は大きく異なっています。また、過去3年間の利用者数の増減率を比較すると、89.3%の増加から14.9%の減少となっており、施設間で大きなばらつきがあります。

施設名称	利用者数_H21	利用者数_H22	利用者数_H23	増減率	貸室部屋数	施設の利用定員	稼働率
ふくじゅえん高齢者ふくし相談室	965 人	856 人	920 人	-4.7%	—	965 人	94.7%
柘植老人憩いの家	10,493 人	10,350 人	12,017 人	14.5%	3 室	11,900 人	92.0%
新堂元気老人ステーション	2,923 人	2,812 人	2,516 人	-13.9%	4 室	3,200 人	85.9%
島ヶ原老人福祉センター	6,327 人	6,595 人	6,810 人	7.6%	3 室	51,090 人	18.4%
大山田福祉センター	4,807 人	4,790 人	4,093 人	-14.9%	6 室	55,404 人	8.2%
ふれあいプラザさるびの(伊賀の国大山田温泉)	3,916 人	7,698 人	7,414 人	89.3%	—	4,900 人	91.3%
青山福祉センター	20,165 人	23,267 人	24,240 人	20.2%	3 室	57,400 人	39.3%

表2-2-21 高齢者福祉施設の利用状況

高齢者福祉施設については、施設の稼働率として※52「施設の利用定員に対する利用者数※53実績」を指標として比較を行いました。

高齢者福祉施設の傾向として、介護予防器具の利用が大半を占めており、これらのサービスを提供している施設（柘植老人憩いの家、新堂元気老人ステーション、青山福祉センター）の稼働率が高くなっています。一方で、デイサービスや貸室のみを行っている島ヶ原老人福祉センターは12.9%、大山田福祉センターは8.2%と低くなっています。

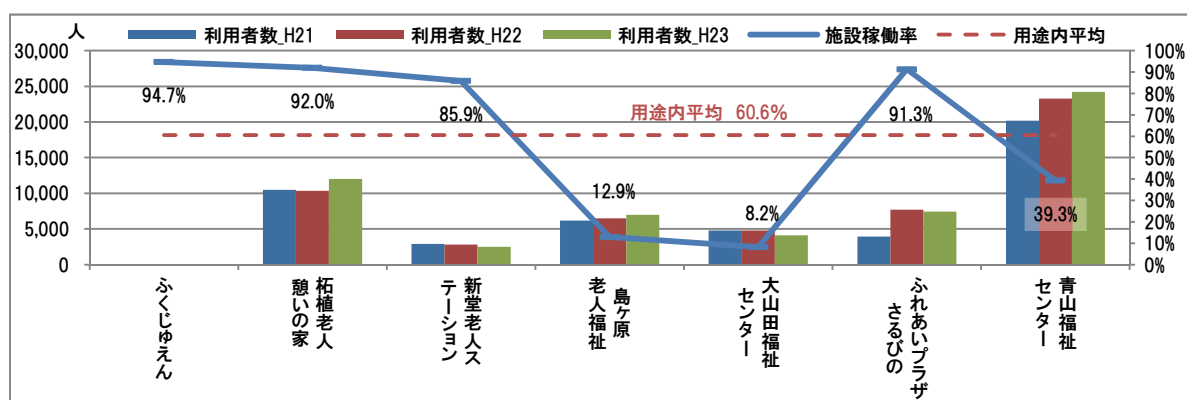


図2-2-45 利用者数の推移と施設稼働率の比較

※52 ふくじゅえん高齢者ふくし相談室については、利用定員や利用者数の目標がないため、過去3年間の利用者数の最大値を分母としているため、稼働率が高くなっています。

※53 利用定員が不明（未設定）な高齢者福祉施設については、「平成22年度に実施した評価結果について」（伊賀市HP）<http://www.city.iga.lg.jp/ctg/99763/99763.html> の施設別の事務事業評価結果などから過去の最大利用者数や利用者目標数から利用定員を設定しています。
例）大山田福祉センターの稼働率は、過去3年の平均利用者数4563人 ÷ 利用定員55404人 ÷ 8.2% となっています。

(5) 施設配置状況及び需給の動向

高齢者福祉施設は、サービス供給エリアを各支所エリア（ふくじゅえん高齢者福祉相談室、島ヶ原老人福祉センター、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）、青山福祉センター）、各住民自治協議会エリア（新堂元気老人ステーション、柘植老人憩いの家）とし、需要者を65歳以上と設定しました。65歳以上の一人当たりの供給状況を比較すると、島ヶ原老人福祉センター（島ヶ原支所エリア）が1.86と需給バランスが平均の1.00を超えています。

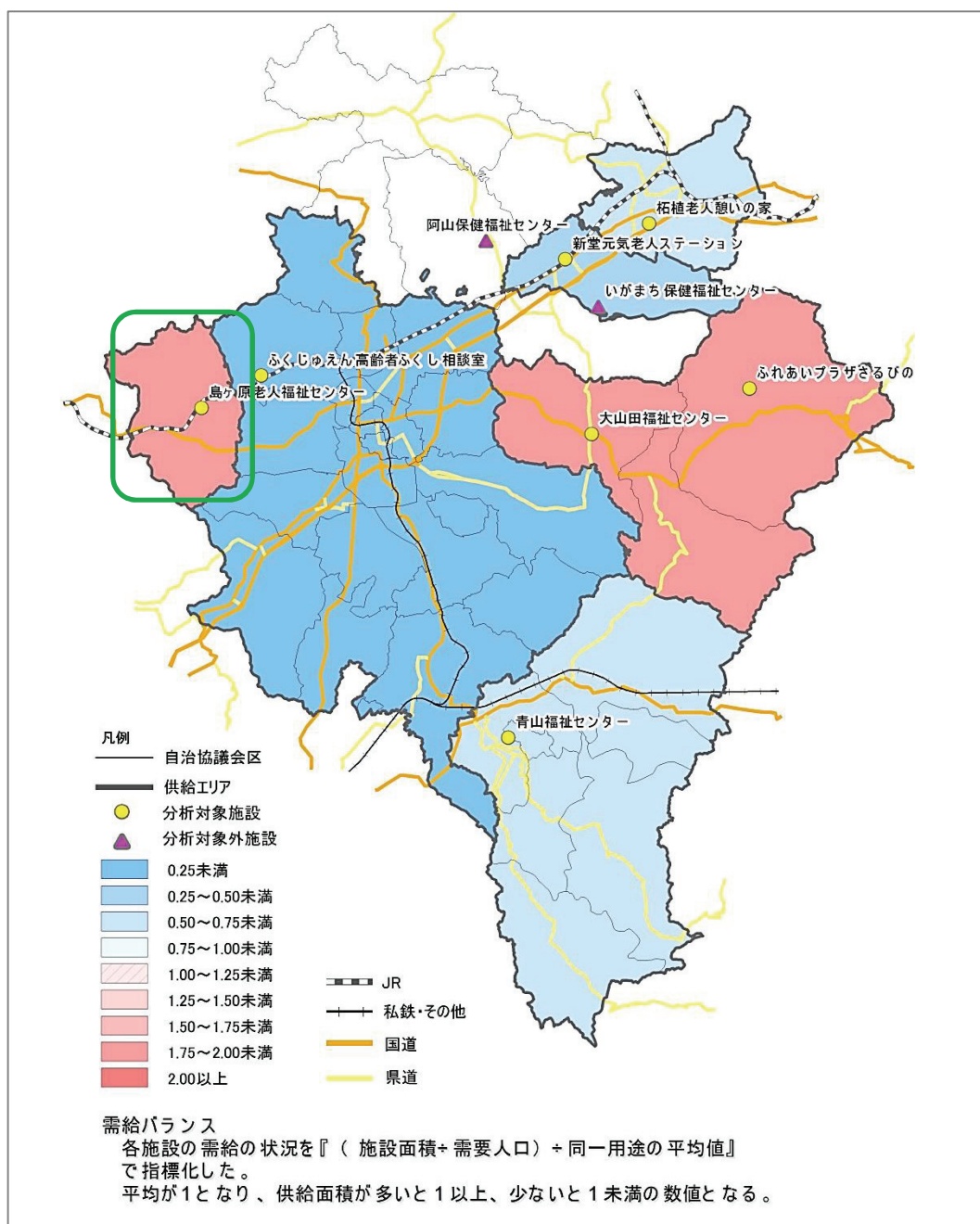


図2-2-46 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

また、需要人口（６５歳以上）の将来推計からは、平成 22（２０１０）年度の 16,198 人から平成 37（２０２５）年度には高齢化の進展により増加傾向にありますが、平成 47（２０３５）年度には 15,192 人と、6.2%の減少が見込まれます。

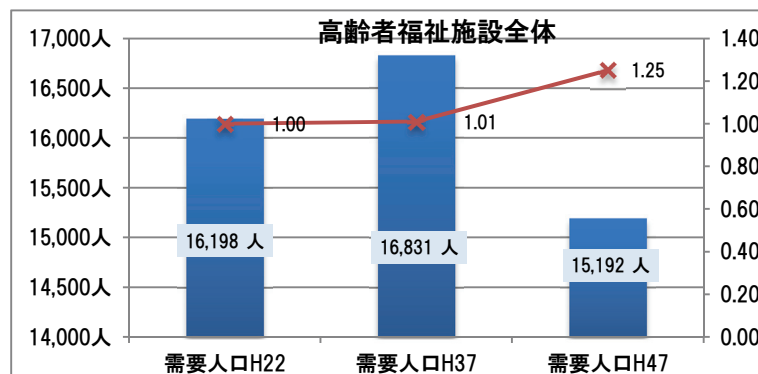


図 2-2-47 高齢者福祉施設の需要人口と需給バランスの将来推計

また、個別エリアの将来推計結果からは、島ヶ原支所エリアの需給バランスが 1.86 から 2.70、大山田支所エリアの需給バランスが 1.77 から 2.19 へと変化することが見込まれます。

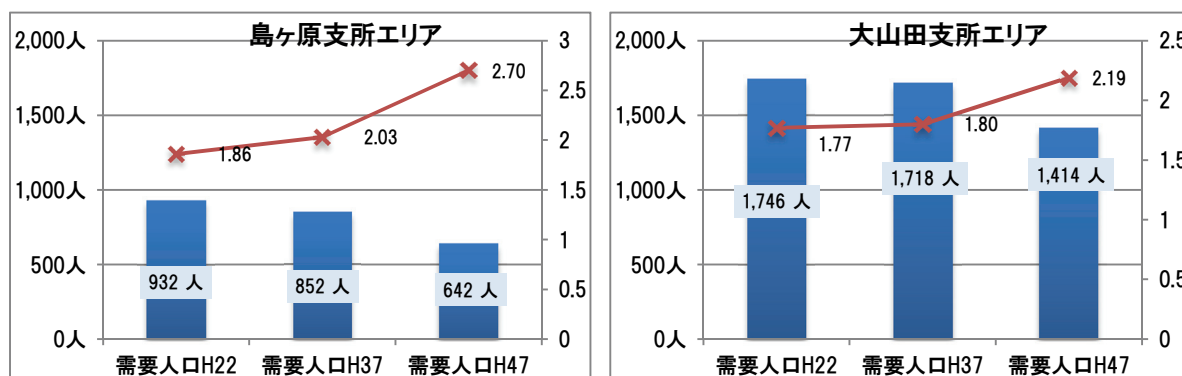


図 2-2-48 需要人口と需給バランスの将来推計（島ヶ原、大山田）

以上までの需給動向の推移から、島ヶ原支所エリア及び大山田支所エリアにおいては、将来的には、需要人口に対して現在の供給量がやや余裕傾向となっていくことが想定されます。

(6) 現状と課題

<施設>

多くの建物が平成以降に整備されているため、老朽化率は27.3%と良好な値となっています。しかし、老朽化率が60%を超え、耐震性が低い建物（柘植老人憩いの家の一部）については更新の是非や優先順位を検討する必要があります。

<財務>

利用者一人当たりの総コストについては、指定管理者制度を利用している新堂元気老人ステーション、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）が、直営で運営しているふくじゅえん、柘植老人憩いの家よりも低くなっています。（島ヶ原老人福祉センターについては、デイサービス事業を実施しているため、高くなっています）

<供給・需給>

施設全体の稼働率は平均で50%を超えているものの、新堂元気老人ステーション、島ヶ原老人福祉センター、大山田福祉センター、ふれあいプラザさるびの（伊賀の国大山田温泉）では、貸室の稼働率が数%から20%程度と低くなっています。

特に、貸室については、貸室を提供している他用途の施設との複合化などを検討していくことが考えられます。

